**■科目名：基礎看護技術Ⅰ（安全・安楽・コミュニケーション）**

**■授業の目的**

看護の基盤となる安全・安楽・コミュニケーションに関する基礎的技術を理解し、根拠に基づいて実践できる力を養う。

**■到達目標**

1. 看護技術の概念と基礎的意義を理解できる
2. 感染予防に関する基本的知識と実践方法を説明できる
3. 看護におけるコミュニケーションの役割と構成要素を理解できる
4. 安全・安楽に配慮した援助技術を根拠に基づいて実践できる
5. 技術を倫理的視点から捉え、対象者に配慮した看護ができる

**■授業内容（全10回）**

**第1回：看護技術とは何か**

* 看護技術の定義と分類（直接的技術／間接的技術）
* 看護技術の実践場面（ベッドサイドケア・処置・援助）
* 医療技術との違い、看護の専門性
* 「根拠に基づく技術」と「思いやりに基づく技術」のバランス
* 技術に対する患者の反応と心理的側面

**第2回：看護技術の概念と基盤**

* 技術に必要な3要素（知識・技術・態度）の事例紹介
* 倫理的配慮（プライバシー保護、説明と同意）
* 「失敗できない」現場での判断力とは
* 実際の場面で技術を行う際の準備と確認項目
* ケース検討：ある学生がバイタル測定を行ったときの課題と改善点

**第3回：感染予防の基礎知識**

* 感染の連鎖（感染源・感染経路・感受性宿主）の具体例
* 医療関連感染（HAI）の実例と影響
* 感染症法における分類と対応の違い
* 手袋・マスク・エプロンの適切な使用場面
* 実践：身近な物品を使った清潔・不潔の見極めワーク

**第4回：スタンダードプリコーションの理解と実践**

* なぜ「すべての対象者に」適用するのか：HIV・C型肝炎の例から
* 手指衛生のタイミング（WHO「5つのタイミング」）
* アルコール消毒と石けんの使い分け
* 実践演習：正しい手洗いチェック（ブラックライト使用など）
* ケーススタディ：PPEを適切に使えなかった場面の分析

**第5回：洗浄・消毒・滅菌の技術**

* 各レベルの違いと適用例（例：血圧計・ピンセット・注射器）
* 消毒薬の種類と使用時の注意（次亜塩素酸・グルタラールなど）
* 物品管理と院内物流の基礎知識
* 器材の分類（非侵襲・半侵襲・侵襲）と洗浄法の違い
* 実演：洗浄～保管までの流れを動画等で確認

**第6回：無菌操作の基礎**

* 清潔・不潔の原則と区別
* 無菌野の設定と維持（器械台上の配置ルール）
* 無菌操作の代表場面：採血・ドレッシング・導尿など
* 演習：滅菌パックの開け方、ガウンと手袋の装着手順
* ケーススタディ：無菌野の汚染に気づけなかった事例の検討

**第7回：コミュニケーションの基礎原理と構成要素**

* メッセージの伝達モデル（シャノン＆ウィーバー）
* フィードバックの重要性と具体例
* 看護場面における伝達エラー（報告・連絡・相談のずれ）
* 実践：伝言ゲームで「伝わらない」ことを体験
* ラポール形成の初期アプローチ（あいさつ、視線、間の取り方）

**第8回：言語的・非言語的コミュニケーションの理解**

* 言語的表現の工夫：「痛くないですか？」と「痛みはどうですか？」の違い
* 表情・姿勢・身体距離の違いが与える印象
* 非言語的サインを見逃した事例（沈黙・視線回避など）
* 演習：2人1組で「言葉なし」で感情を伝えるゲーム
* 看護師の「沈黙の技法」活用例

**第9回：安全確保と事故予防**

* 療養環境におけるリスクアセスメント（ベッド・床・照明など）
* 転倒・転落の高リスク要因（高齢者・認知症・薬の影響など）
* 看護記録とインシデントレポートの役割
* 実例紹介：夜間の転倒事例から学ぶリスク予防
* 教室内環境を使ったリスク点検ワーク

**第10回：安楽を促す看護技術（温罨法・冷罨法）**

* 温熱療法・冷却療法の生理的メカニズム
* 適応と禁忌（糖尿病・循環障害・意識障害など）
* 使用物品の確認と準備（湯たんぽ・冷罨器など）
* 実技演習：温罨法と冷罨法の手順と安全確認
* 対象者の観察と効果のフィードバック方法